

静岡県 駿東田方圏域

地域で当たり前前に生活できる 圏域を目指して

駿東田方圏域では・・・

医療と福祉、行政が連携し、地域移行支援体制の構築と推進に努めてきています。

圏域の課題については、各ワーキンググループで対応し、それぞれの立場での意見を取り入れる事で、より充実した内容での実施を行っています。

1 駿東田方圏域の基礎情報

基本情報

市町村数（H29年3月末）	12市町村（熱海市・伊東市含む）		
人口（H29年3月末）	755,717人		
精神科病院の数（H28年12月末）	6病院		
精神科病床数（H28年12月末）	1,172床		
入院精神障害者数 （H28年6月末）	3か月未満：171人（16.5%）		
	3か月以上1年未満：170人（16.4%）		
	1年以上：694人（67.1%）		
	うち65歳未満：347人		
	うち65歳以上：347人		
退院率（H28年6月末）	入院後3か月時点：50.5%		
	入院後6か月時点：76.2%		
	入院後1年時点：86.7%		
相談支援事業所数（H29年3月末）	基幹相談支援センター：11		
	一般相談事業所数：35		
	特定相談事業所数：46		
障害福祉サービスの利用状況 （H29年3月）	地域移行支援サービス：35人		
	地域定着支援サービス：30人		
（自立支援）協議会の開催頻度（H28年）	2回／年		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の有無と数	障害保健福祉圏域	有・無	1カ所
	市町村	有・無	9カ所

※H29年3月時点

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

	項目	内容	対象	実施主体	取組年度
1	精神科病院での説明会の実施	相談支援事業所・ピアサポーター・行政が精神科病院に出向き地域移行支援について説明を行い理解を促す。	病院職員 入院患者	地域移行部 会事務局	H28 H29
2	精神科病院内での移動ピア連絡会の実施	地域で生活しているピアサポーターと話す機会を持つことで、地域生活を具体的にイメージできるようにする。	病院職員 入院患者	地域移行部 会事務局	H28 H29
3	住宅関係問題の取組	体験宿泊の機会や確保や保証人問題等、住居問題に関する実態把握調査を行い、地域の課題を整理・検討する。	国、県の住宅関係部署 宅建協会	地域移行部 会事務局	H28 H29
4	地域移行研修会の実施	圏域の各関係機関（行政・病院・事業所）が地域移行について理解し、統一した認識が持てるようにする。	各関係機関（行政・病院・各関係事業所）	地域移行部 会事務局	H28 H29
5	ピアサポーターの育成について	当事者ならではの視点や関わりで当事者による当事者のための相談支援ができる人材を育成する。	ピアサポーター	地域移行部 会事務局	H29
6	精神科病院の病棟内に相談支援事業所及びピアサポーターが入り、入院患者から相談を受けられる体制づくり	入院患者に対し、相談支援事業所職員やピアサポーターが関わる事で、社会生活への意欲を持ち、退院に繋げる事を目的とする。	精神科病院 相談支援事業所 ピアサポーター	地域移行部 会事務局	H29

3 評価指標の設定状況

【静岡県全体】

指標名	H28時点	H29	H30	H31	H32
1年以上の 長期在院者数	3,518人	3,244人	未設定		
入院後3ヶ月 時点の退院率	57.8%	64%以上			
入院後1年 時点の退院率	88.6%	91%以上			

【駿東田方圏域】

指標名	H28時点	H29	H30	H31	H32
地域移行支援 利用者数	14人	H28年度以上	未設定		
地域定着支援 利用者数	30人	H28年度以上			

【設定理由（根拠）】

- 地域移行支援の取組実施に係る指標であるため。

4 事業の進捗状況 ※平成29年9月末時点

	項目	実施内容	実施日
1	精神科病院での説明会の実施	ワーキング実施2回 (実施内容の確認。日程調整。講師の選定方法について)	平成29年6月2日、9月22日
2	精神科病院内での移動ピア連絡会の実施	ワーキング実施2回 (実施内容の確認。日程調整。講師の選定方法について)	平成29年6月2日、9月22日
3	住宅関係の取組	①ワーキング実施2回 (住宅関係アンケートの内容、依頼先の確認) ②アンケートの実施 (精神科病院、相談支援事業所、市町 (障害福祉担当課、生活保護担当課)) ③アンケートの集計	①平成29年6月2日、7月24日 ②平成29年9月1日～9月15日
4	地域移行研修会の実施	ワーキング実施2回 (研修内容、講師の選定について)	平成29年6月2日、8月28日
5	ピアサポーターの育成について	未実施。	今年度は内容を検討し (志太榛原圏域のものを参考にし、県で検討している内容を確認したのち) 来年度実施予定。
6	精神科病院の病棟内に相談支援事業所及びピアサポーターが入り、入院患者から相談を受けられる体制づくり	未実施。 長期任意入院者への地域移行取組と併せて検討する。	今年度の県自立支援協議会の動きを見ながら実施を検討。

5 現時点での課題・悩み

- 地域移行を利用して退院した方について、事業で講師として招きたいが了解が得られにくい。（地域移行を利用せず退院したピアサポーターは講師として参加してくれている。）
- ピアサポーターの活動が保証されていない。（活動費や活動の場など）
- 病院長等への地域移行の理解が進まない。
- 関係機関でも協力的なところと非協力的なところの差がある。
- 圏域自立支援協議会専門部会「地域移行部会」は広域であり構成員が30名（精神科病院、相談支援事業所、ピアサポーター、家族会、市町、保健所、県庁、精神保健福祉センター）と多く、全ての機関からの発言が求めにくい。
- 圏域が広域であるが故、地域差（病院や事業所等の有無、交通基盤を含む生活環境等の差）から生じる問題の幅が大きい。
- 地域移行の申請件数が少ない。（1市町につき、年1～2件。申請が無い市町もある）
- 長期入院者の高齢化に伴う退院への困難さが生じている。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた平成29年度の取組スケジュール

平成29年度の目標

1. 病院説明会の実施
2. 移動ピア連絡会の実施
3. 地域移行支援研修会の実施
4. ピアサポーターの育成について
5. 病棟内に相談支援事業所、ピアサポーターが入り相談を受けられる体制整備
6. 住宅関係への取組

時期(月)	実施内容	担当
H29年8月～2月	希望している4病院を対象に職員、入院患者に対し地域移行の啓発活動のため説明会を行う。	病院説明会ワーキンググループ(事務局)
H29年8月～2月	希望している3病院で、ピアサポート連絡会を開催し、入院患者に対し地域生活への意欲喚起を行う。	移動ピア連絡会ワーキンググループ(事務局)
H29年2月頃	圏域で地域移行の研修会を実施する事で、普段参加しにくい病院・事業所等関係機関に対し、地域移行の理解、連携を構築する。	研修ワーキンググループ(事務局)
H29年10月～2月	当事者ならではの視点や関わりで当事者による当事者のための相談支援ができる人材を育成する。	事務局
H29年10月～2月	精神科病院へ事業理解のため、部会長、SV、事務局で訪問し理解を得る。相談支援事業所やピアサポーターとも相談し、どのようにすれば対応可能か協議する。	事務局
H29年7月～2月	アンケートを実施し、それをもとに宅建協会等の住宅関係機関との連携を図る。	住宅関係ワーキンググループ(事務局)